

えつとろ

仕事を、寝場所を

市民への訴え、仲間への激励、昨夜も

野宿を余儀なくされている仲間の苦難を訴え、仕事・寝場所を求める声を現実のものとするために、市民の理解と協力を求めるため、また、釜ヶ崎から遠く離れて野宿をこける仲間を激励するための、拡大パトロールが、昨夜は梅田でおこなわれた。

阪神・阪急デパートの間の地下広場や阪急デパート一階通路、JR大阪駅周辺で、野宿をこける仲間を激励の声をかけ、通行中の人達に理解を求めるように手渡した。ビラを受けた人の中には、くぼらく行動を共にする人もいた。また、大阪駅の中央コンコースでは、たまたま歩

動中の北政冬の仲間と出会い、合流した。

梅田の地下通路では、南北テントでよく見る仲間もいた。政治の期間中南北両テントが開鎖されているので梅田ですごしているようだった。

政治活用を呼びかけ、南北テントを一時閉鎖したが、政治活用を選択しなかった仲間は行き場を失ったことになったわけだ。人それぞれ事情と要求にあった、多様な対策が必要とされている。

大多数の平均的な事情・要求に沿った量を重視した対策の実現を求めるところで、それに応じられない仲間への対策も追求されなければならぬ。

今日、三角公園では

団結モチツキ大会

餅つきは、チームワークと細心の注意が必要だ。

餅米を水につけておき、セイロで出し、ついて、こねて、食ぶる。キネをまわりの人せかえす人の手に当らないように注意が必要。

食べるにも注意が必要だ。今から二七七八年前の越冬では、モチをノドにつまらせて死人だ仲間を出してしまった。体力の劣えは、モチを飲み込む方が意味する。

あの当時から高命代も着たり、つきたての餅をかみ切る歯の仲間を多いたろう。

みんなで楽しめたモチつきを、細心の注意を払って盛りきろう。

バンド演奏・夜祭放出もあります。

越冬まつりは明日(三日)まで。

医療パト報告

北まわり 171名
南まわり 341名
医療センター 46名

北まわりで、岐阜から出かせぎに来て、大阪駅から飯場に入
たけど、ひどいところで、給料もくれないので、逃げてきたという
人があった。釜ヶ崎も知らないというこぼれ。地図とかも渡して、私
が金目録のこぼれも教えて、相談もしていました。

寒さに負けず

卓球大会・コンサート

腹にたまる一食の提供・飛入り散髪屋さん

「二日数日あたたかかったのが、急にまた寒くなった昨日、予定通り卓球大会がおこなわれた。実際にラケットを握って試合に参加したのは三十数名。

もうややつこいから場所のいれかえはなし、風も吹いてないし、陽がまぶしいというこもなからどっちでも不利はないやろ。という三角公園ルールで、五人抜きを戦った。

四人まで勝ち抜き五人目で負けた仲間や一度も勝てなかった仲間も、寒さの中、一人ぼり強く卓球台を囲

んでいるだけあって、いずれみくらぬ卓球好きと見えた。

五人抜きを達成したのは、二人だった。

コンサートも、盛りあがったが、最後の「釜ヶ崎人情」は、あやは者衆に近いというより騒ぎに近い。もつとウデをみがいて聴かせてもらいたいものだ、という声もあった。

ボランティア

釜ヶ崎にはいろいろな人がいるし、いろいろな人がくる。

昨日、三角公園で、無料で仲間の

散髪をしていた人は、伝文聞くとこらにみると、失業中だそう。時間があるの、ボランティアとして散髪するの、と考える、三角公園にきたという。

ハサミで刈り込み、ヒゲをあたってサッパリした仲間は、さうに見えた。

自身、失業中であれ、色々心配もあることだろうが、時間があるボランティアに使える時間があると考え、行動する人を大事にしたいものだ。

外へでかけ、拡大パトロールで多くの人に理解と協力を呼びかけている。この散髪屋さんのように、自発的、自分の考えで釜ヶ崎に来る人が今後増えることを考えられる。

そんな人達との出会い、フなかりを仲間全体で大事にしたいものだ。連帯の輪をひろげるために。

明日 新春一弾 要求行動 大阪市庁舎までデモ

声太く我らの要求を 伝え、獲得する 礎に

南港に設けられた大阪市の臨時宿泊所を、二千四百人を越える仲間が利用している。

臨泊を活用している仲間が、それぞれどのような事情を抱えているのか、破産ことは、今、ゆからない。正月の期間だけ難をさせて臨泊に行った仲間もいるだろうし、長い野宿で劣えた体力を回復するために行った仲間もいるだろう。

しかし、少なくとも、入所した仲間の半数以上は、一月七日以降、野宿へと追いせられることは間違いない。

年々繰り返される野宿から臨泊

臨泊から野宿の循環を、今年こそ打ち破らなければならぬ。

釜ヶ崎に、常設の「臨泊」が必要なのは明らかだ。テントではなく、二千規模の常設宿所を求め、実現させよう。

臨泊利用者減少はなぜか

大阪市は臨泊で三千人受け入れるといつたが、利用した仲間の数は昨年を下回った。これは野宿を余儀なくされている仲間が減少したことで意味するのだろうか。

日常生活での感覚は、そうではないと教えてくれる。多くの仲間を

今日の三角公園

腹にたまご一食の提供

朝 8時 キギミ玉子雑炊

昼 1時半 他人丼

夕 6時 沖繩そば(おにぎい)

ソフトボール大会とコンサート

午後1時〜8時

明日、四日から

高令者就労輪番紹介再開

西成労働福祉センター

明日、一月四日は世間一般仕事始

大阪市、府が発注し、各種

飲食三徳療・NPO釜ヶ崎が

実施している高令者就労事

業も「たぶん」たもれず仕事

始め。

11つもごあり、西成労働

福祉センターで、当日分の

輪番紹介がおこなわれる。

番 539 番 始

医療パト報告

北まわり 176名
 南まわり 382名
 医療センター下 60名

センターの前で、希望の上につぶせにたおれている人があり、声をかけたけど、応えがなく、手や足は冷たかったけど、首やわきの下は温かったの、すぐ救急車を呼び、みんなの手や足をからだをさすりました。もう七つはなっていました。昼間、三角公園でのモチつきにきて、いっしょにモチを食べた人と、閉まりました。集約の時、黙っていました。

うなづいてくれることだ。

大阪府・市が、困難している仲間

に対して手助けとなる施策を打ち出

さないから、なんとしてでも生かす

ための、釜ヶ崎内外で、大阪市内一

円で、公園や道路で、アルミ缶や粗

大ゴミを集め、コンビニの惣味期限

切れ食を求めて、自決する道を選

んだ仲間が増えている。だから、臨

泊へ行く仲間が減少したのだ。

生きるということは一年三六五日

の連続した営みだ。一年公園で生き

れば、それなりにリズムがでる。

生活が確立する。生命の縮小につな

がる道である。判っていても、選択

すべき道がなければどうせやるさえ

ない。

行政側の対応の遅れが、仲間の野

宿生活の固定化を招いたのだ。

一二の現状からすれば、あいいり

対策とは別の、生かすに活用で

きる施設が、各区に「ケ」所は必要だ
と考える。

このまま、野宿を固定化し、衰弱

して、路上で死ぬにまかせる。こい

うことがまかりこのことがあつて

はならない。

アジアの音は心に響く

昨日、三角公園では、昨年よりも

長くモチつき大会を楽こんだ。

交類放出も好評であったが、その

そばで、フロに入れたらな。フロ

に入れて洗濯できなければ、いくら

服もらってもナァーとぼやいていた

仲間がいた。誠にさもつとも。

夕方の一食は大機オロンが一握り

のせられた胃たやましく一食であつ

たが、アジアの音楽も心にやましく

響いた。

アイヌのモンゴルの、日本の、音

そして、仕事を、公的雇用創出の

ナリなる拡大を定める。

要出実現のためには、自己満足

行動であつてはならず、閉鎖的であつ

てもならない。あきらめてモチつき、

市中金へのテモに参加を!

は、心に響く。

こくに馬頭琴の音と独特の発声法

のホーミーは、フキなみながら大草

原を思いうかばせた。とにわか詩人

となつた仲間の声。

拡大パトローンは阿倍野へ

拡大パトローンは、天王寺公園や

阿倍野周辺で野宿している仲間を激

励し、道行く人々にビラを手渡して

理解と協力を求めた。スキーバスに

乗り込ん人もビラに見入ってこぼこ

えつとろ

朝8時センター↓朝8時半 三宮公園 ↓堺筋北上 大阪市庁へ

仕事を、寝場所を、食を。

年始め要求を明確に

仲間たち、行政機関を始め、世間一般は今日から仕事始まりました。

母々の仕事始めはなにか。野宿を

余儀なくされている仲間のことを。

他人事でなく、熱いこととして考え、

仲間を支えるための、互いに支え合

ひために行動することだ。

世間に対して、秩序正しく、我々の主張、求めることを伝えることだ。

釜ヶ崎に仕事がなく困っているのは労働者ばかりではない。高令主

や簡宿の経営者も困っている。釜ヶ

崎の雇用対策は労働者のためだけに

なく地域経済の振興にとつて必要

なことを示す。雇用創出基金は作り

かれない。高令病弱の仲間が再び路上

に放り出されることのない対策が必要

だ。

れる金の多くが、釜ヶ崎地域内で使

かれていくことも明らかになることだ。

雇用対策を求める我々のまは地域

を代表するものである。

一月七日には政治が閉鎖される。

その際、高令病弱の仲間が再び路上

に放り出されることのない対策が必要

だ。

政治を利用した仲間の多くは、年

間通して利用できる、政治を必要

としていることを明らかにした。大阪府

市が協力して設置することを求める。昨年

は、行政の努力もあって、わずかとはいえ就職機会が増えた。その

ことはそのこととして正しく評価

今日の腹にたまる

一食の提供は...

朝 8時 味噌汁(おにぎし)

昼 11時半 カレー丼

夕 6時 中華風オヤミ野菜丼

5時から10日までは、毎日、昼、11

時半の一食、その後は年間通算の日

給となりませう。

越冬まっしは昨夕まで

なまやまな行事をくりひろげた越

冬まつりは、昨夕であわりました。

行事に参加した仲間、見守った仲間

そして文化班の仲間、ご苦労さまで

した。

高令者就労 今日の始番は 539

高令者就労事業の、今日は仕事始

まり遅れや、紹介票の出し忘れがな

りなつた、今年一年、無事故で!

医療パトロール

北まわり 210名
南まわり 380名
医療セーフ下 58名
アソ、天王寺 83名
心斎橋北 84名
心斎橋南 56名

日本橋西 144名
日本橋東 144名
2日の夜、七くつた
人のいたところ、
お花とワシカマア
を扱えまじ

南回り、セーと南海の辺りで、痴車に、1月中旬から、工事
をやるから、1/5までに、つきよろというほり紙があった。
地区外で、緑地に行っている人もいっている。通りかかると
人たちが、酔っ払いたりして、タンボールをけったり、物を
投げつけたりするという話を聞きました。

告知板

昨日10時に三角公園で、労働
相談のために待ち合せしていた
長谷川さん、都合の良い時に相
談、連絡してください。
金日朝まで、662-423(72)

拡大パトロールも終了
越冬まつりは沖繩県議で盛り上り
拡大パトロールに出かける時間があ
そくなつたが、昨晩は、日本橋、新
世界方面で野宿をする仲間を激励
また、今日の要請行進への参加を呼
びかけて回った。
人通りはあまり多くなかったが、
信号待ちの車の運転手にもどうぞ手
渡すなどして、野宿生活者への理解
を訴えた。

した上で、更なる努力、現実に見合
った積極的対策を求めたい。
仲間たち！ホウ金のデモ行進
に参加を訴える。

ソフトボール大会報告

街頭テレビの前でおこなわれたソ
フトボール大会は、多少迷惑だと思
った仲間もいたかも知れない。それ
でも黙って長時間見守ってくれた仲
間に感謝。
しかし、新聞紙をくれたボールも

NPO釜ヶ崎とは

釜ヶ崎には、さまざまな団体があ
る。釜ヶ崎ヤ勝ち取る会、医療連、
そして、反失業連絡会や釜ヶ崎キリ
スト教協友会などだ。
「E.N.P.、P.O.、オー、釜ヶ崎」
というのは、昨年九月末に、釜ヶ崎
に誕生した団体だ。釜ヶ崎にあげた諸
団体とちがうのは、法人であるこ
とだ。

センターの掲示板上でその名前を見
た仲間も多いと思うが、誕生からい
まだ三月、釜ヶ崎の中ではあまり

結構いきなりよく知られたので感心
した。

試合は四千ム、二試合があこな
われたが、優勝決定戦はおこなわれ
なかつた。

子ども頃よくやった三角ベース
を思い出した仲間も多いのではなかつた
よく知られているとはいえないので、
紹介したい。

N.P.O.の釜ヶ崎の正式名称は、
「N.P.O.の釜ヶ崎」の正式名称は、
人、釜ヶ崎支援機構」といふ。

よりするに、特定の目的を達成す
るために、非営利組織として活動す
る法人である釜ヶ崎支援機構
という名前の団体ということだ。

一般的には公益法人として分類さ
れるようだが、特定非営利活動促進
法に基づき、大阪府知事の認可を
受、法務局に法人登記している、N
P.O.の法人である。とまじいからえられる。

えつと

道行く人に 訴えながら

ムシロ旗を掲げて市庁舎までのデモ行進報告

昨日、新春第一弾、要求行動があらわされた。

ムシロ旗に要求を高くかかげ、道行く人に訴えながら、市庁舎までのデモ行進があらわされた。

釜の労働者を代表して参加した仲間連、こ苦勞様でした。

ところで、我々は公的雇用創出にむける就労機会の拡大を求め続けている。これを、他の言葉にいりかえることのできるだろうか、昨夕の朝日新聞「経済家象の」には次のように書かれていた。

積極的な公共投資が続いたこともあり、建設業の従業者数がこの十年で増えている。その一方で、後に立たない公共投資が目立つと批判されている。すなわち公共投資の名の下で建設された道路や施設に、特に不要不急のものがみられ、失業救済事業の色彩が強いとの見方がある。この点を客観的に分析し、これらを通じて公共事業の高水準維持が、それとも雇用保険の充実かを比較検討する。ここで、政府は費用対効果をおおむね選択ができるはずである。

磯村大阪市長はテレビで、「国境集客都市としてのインフラ整備は今年度中におおむね完了している。」という発言に世論・市民の両方から見て、大阪では公共事業による雇用拡大は見込めずであるといいつつ、失業者がこ所まで通り建設業へと誘導するのはなく、失業保険を支厚くして一時的に失業者の生活を支え、あらたな産業へと誘導する方が将来的に考えて良策である、という。我々は新しい産業としてのリサイクルリ産業物の産業再資源化事業を確立し、就労機会を拡大することを求めている。また、仕事のゆがちをいさぎよく考えるとする公的雇用創出にむける就労機会の拡大を求めている。この要求は、我々の心算から出てくる。同時に世の流りにそって、たのみのた。確信をもつて要求し続ける。

医療パトロール

北まわり 182名
南まわり 337名
医療パトロール 64%

北も南も、臨泊から、ほちほち帰ってきてる人もいるのかはと思いましたが、緊急箱に入れてたカゼ薬か足りないうらい、カゼ薬か少ないという人が多かったです。(参加者の感想)初めて参加して、いろいろ話を聞いて、警察は信頼できると思ったけど、ヤクザとケルになつてひどいことと知りました。

南港臨泊付設?

喫茶語り所

今年の南港、臨泊は一味ちがっていった。臨泊の入口の正面、道路を渡った所に、喫茶の喫茶、語り所が出来た。二月三日から一月三日までの連日、八時から五時までという勤労な時間帯、臨泊を利用しての仲間から大好評を受けた。

四日分のつもりで用意したコーヒーは三日の昼過ぎにはさくなくなくなり、買戻されたが、それでも足らず二日も買戻されたという驚きぶりだったという。

コーヒーを飲みながら、生活・労働相談や意見交換があつた。毎年のことながらメシ・フロの苦情が多かつたようだ。利用している仲間には現役・半現役層も受け入れ、長期滞在している仲間はやはり勤まらなかつたのだらうと、感想を述べた。

特定非営利活動法人 釜ヶ崎支援機構

高令者清掃事業の義務になつて、高令者清掃事業の義務になつて

二つのが、NPOの釜ヶ崎であること、特定目的を達成するための、非営利で活動する法人であること、は昨日、紹介した。

では、釜ヶ崎支援機構が非営利である活動とはどのようなものか、紹介する。

NPO釜ヶ崎

- ① 野宿生活者への食の提供
- ② 野宿生活者への宿所提供
- ③ 野宿生活者と野宿に至るおそれのある人々の相談事業
- ④ 野宿生活者と野宿に至るおそれのある人々の感情把握のための調査・研究事業
- ⑤ 野宿生活者と野宿に至るおそれのある人々の社会的処遇改善活動

る広報・啓発事業

⑥ 野宿生活者と野宿に至るおそれのある人々の社会的処遇改善活動に対する援助活動

⑦ 野宿生活者と野宿に至るおそれのある人々が必要とする就業機会提供事業

⑧ 野宿生活者と野宿に至るおそれのある人々が必要とする衣食住・健康に関わる一切の物品・サービスの提供事業

⑨ 定款に定める目的並びに(右記)事業を達成するために必要一切の事業

これは定款に書かれていたことで、現在、すべてにわたって実施しているわけではない。ななせ、生計で三ヶ月の赤ん坊、まだまだ頼りないところがある。若い親で、まあ、必死か

この辺り、野宿生活者と野宿に至るおそれのある人々の社会的処遇改善活動

えっとり

千八百人の帰釜?

昨日伝えられたところによりますと、臨時宿泊所を活用している仲間は今、5日現在、千八百人いるという。

臨時宿泊所は七日朝までで閉鎖されるので、千八百人の仲間が釜ヶ崎に帰ってこなくてはならない。

もちろん、高令病院の仲間が再び野宿生活に余儀なくさせられることはない対応がとられるものと考えている。

そうだとくても、多くの仲間が次の宿場所を探した、その日から野宿しななければならぬことは疑いなし。七日夜からは南北テントの利用が再開されるが、立派といえるほどの内容ではないことは、残念ながら、知っているところ。

そのことを単純に考えれば、南港で使われなくなり、解体されるマレ

ハスや、トラックで釜に運ぶ、再び組み立てれば、どれほどたすかるか

腹にたまる一食の提供を続ける

勝ちつゝ会「年頭マール

私たちが「勝ちつゝ会」はミニミニと意識して、人目を引くような特別な事を考えて「この節ではあきらめず、今年もあきらめず闘争の会」の旗を掲げ、活動の力を注いで行きたいと思えます。

（食）の「ミニミニ」を通じて、仲間たちとつながりを保ち、「この不況のせいで一食となって棄じ切る事を大前提に置いて」いるからです。その「ミニミニ」の意味でも私たちは、あくまでも「食」にこだわり続けたいと思えます。

地道ではあつけれど、決して欠か

とか。物事は単純に考え実行すると障害もなく成功する道なのだから...

車の出来なりのこととして「炊き出し」は、今後とも続けて参ります。昨年の秋頃から、不景気感を底を打ち、緩やかにあるが、回復の兆しが見える「そんな論議の報道を眺めると、見守るのになりましたが、「ミニ」が時に於いては、勇気として怒りの事は出来ません。おこし雇用情勢も一段と厳しくなっていることが、現状であると言わなければならない。そんな中で今、自分たちに出来る事を、一日一日、確実に積み重ねて行く事が尚更に大事だと思えます。法曹の多々の制りに決して華やかなおもてなしを注ぎたいわけでも無い、炊き出し「活動ですが、これからは工夫しながら「ミニ」に共食をてもらおうと思えます。

今までの「炊き出し」を続けてこら

医療パト

北まわり 206名
南まわり 344名
医療センター下40名

昨夜も、北も南も、かせひいてかせ業か欲しいという人が多くいて、あはび足りなくなりました。
「考加者のかんゆう」こちらから声かけより、先に話しかけてくれていろいろ話を聞いて、うれしかったです。



三宮公園の焼き出しは10日まで

2000年1月
「勝ちどきの会」メンバー同

れたのも、カンパを募らせて下さる皆様、調理や配食、準備、後片付けを手伝ってくれる多くの方のお陰です。
加論、食べてくれる仲間たちの美味いよ！いつもありがたの一言が励みになっていのは言ひまでもありません。
私たちは決して放しにする立場にある訳では無く、常に仲間たちと共に在る、そんな当たり前の事を決めて忘れる事無く、着る事無く、今年も仲間たちと共に助け助けられながら、生きて行きたいと思えます。
これから皆様への御指導を仰ぎ、御支援、御協力を賜り、微力ながら頑じたいと思えますので、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

NPO 釜ヶ崎

釜ヶ崎支援機構の定款には、野宿生活者や野宿にいたるおそれのある人々に役立つ、様々な活動を、非営利でおこなうことが定められていることを紹介した。

しかし、できたばかりなので、いまだ手つかずの活動分野ばかりであることも、では、このようなことで、直接、釜の仲間のために役立つというのだろうか。

昨年12月から西成労働福祉センターが輪番紹介している高令者求職の求人数が60人増えたと知っていることを知っていると仲間も多しことだろう。

従来からの40人の雇用主は、自達館三徳家だが、新しく増員となった人の雇用主はNPO釜ヶ崎

特定非営利活動法人 釜ヶ崎支援機構

釜ヶ崎である。仕事の発注主は大阪市。自達館三徳家の仕事は大阪市の予算で、NPO釜ヶ崎の仕事は、国の予算(職歴雇用創出基金交付金)を使用、二年半の期間限定(である)な

われている。
普通、民間の会社が仕事を請け負うと、仕事にかかる費用、人件費や資材費の他に利潤、会社の利益をこるが、NPOの法人や福祉法人は利益を追求する会社ではないので、こうせんはとってない。大阪府や国のお金、予算を適切に使って仕事を任せているだけだ。

予算を管理するだけでなく、労務事故がおこらないうちに、仕事がつましく仕上がるように運営する責任を負っている。そのため、労働者以外に、固定した待遇を雇用している。就労機会提供事業というわけだ。

えっとう

今日から テント 再開

今日から、南北両テントの使用が再開される。

これまで南北両テントを利用し続け、かつ、路泊を避けてきた仲間に、多大な迷惑をかけたことを詫言びたいと思ひ。

両テント閉鎖のもつ意味はなんだったのか、そして、なにが明らかになったのだろうか。

今期越冬対策に路泊の利用可能人員は三千人としていた。昨年末は二千七百人をこえていたのだから当然の対応といえる。

越冬策は、長引く路泊の固定状態から、野宿を準備せざるを得ない状況に追い込まれてくる。この認識をもち、野宿を代

釜ヶ崎キリスト教

協友会からのマニール

1月の間にか、スロの年を迎えた釜ヶ崎ですが、連日に渡って、越冬の闘いを続けている仲間の皆々へ、1月のこの時期にかけては、比較的暖かい日が続いておりますが、その間でも、路上で、釜ヶ崎の労働者が亡くなったと言ひ報告を聞く度に、あらためて、釜ヶ崎日雇労働者の取り巻く状況の厳しさを痛感させられます。

私達「協友会」は、今越冬の取り組みとしては、越冬策の闘いが終了した、1月10日以降から、月末にかけて、例年通り、夜まわりを軸と

しつつも、炊き出しや医療相談等、釜ヶ崎で、この間通年的に続けられてくる、労働者の生命を守るための様々な闘いに支援して行きたいと思ひます。

協友会も、結成以来30年を迎えましたが、人を人として語りテーマの下、新しい一年を、微力ながら、釜ヶ崎での働きを続けて行きたいと思ひます。

医療パト警

北まわり 195名
南まわり 388名
医療パト警 297名

南まわりで、撤去の命令の出たところでは、車の中にもどって、準備をしていました。おとこの夜も、昨夜も雨が降って、夜更にこるかなと思ひます。雨をさけて、ガード下や軒のあつところに、物っている人もありました。

打ち破れしスローガンにかかげながら、それだからこそ、たこえ一週間で身体力回復に役立つ機会として、政治活用を呼びかけた。

しかし、政治利用者数は昨年を下回った。

このことは、野宿固定化が進行していることを証明したといえる。また利用者数から、年間通ひでの政治が二千人規模で必要なことを証明したといえる。

今後、野宿を余儀なくされている仲間への対策は、仕事を拡大するところが基本であることはもちろんだが、行政の対策にたいする姿勢をまず仲間への宿所対策として、すでに行政対策に見切りをつけ、公園や路上での生活に意識を集中している仲間への、居住組合合った拠点提供など多様なものが追求されなければならぬ。

以上が明らかになったと考へる。

**特定非営利活動法人 釜ヶ崎支援機構の
就労機会提供事業と高令者就労**

特定非営利活動法人釜ヶ崎支援機構が、定款に野宿を余儀なくされている仲間と野宿にいたるおそれのある仲間のために、様々な活動をおこなうと誓っているにもかかわらず、設立三ヶ月の現在、就労機会提供事業とこの取り組み、大阪市の高令者就労事業のすいこうがなさをうけていられることは、すでに紹介した。

NPO 釜ヶ崎

特定非営利活動法人釜ヶ崎支援機構が、定款に野宿を余儀なくされている仲間と野宿にいたるおそれのある仲間のために、様々な活動をおこなうと誓っているにもかかわらず、設立三ヶ月の現在、就労機会提供事業とこの取り組み、大阪市の高令者就労事業のすいこうがなさをうけていられることは、すでに紹介した。

仲間の中には、一月からの事業開始の方が、早すぎて、なぜ、可能だったのかと不思議に思っているものもいるかも知れない。

法人登記したのが九月三日、その一ヶ月後の十一月一日には、九人の仲間と仕事を開始していた、こ

の素直さには、やはり理由がある。

釜ヶ崎反失業連絡会は、バブル崩壊後、大阪府・市に、仕事を求め続けてきた。多くの仲間が参加した要求行動の積み重ねが、大阪府のセンター清掃、大阪市の地区内清掃の実施を引き出した時、反失業は、規模は小さくとも、仲間と共に働き、事業を大事に育てるために、作業リーダー・指導員を反失業メンバーから出した。

高令者清掃で働く仲間のマシメな仕事ぶり、指導員への信頼、さらに多くの仲間の粘り強い要求が、就労数の拡大をもたらしてきた。

どういった背景があったから、法人化した直後に、大阪府から事業委託されたのだ。

えっと

心持ち…

南北テントが再開された。さっそく一杯となった。

気のせいかな、心持ちテントに活気があふれているように感じた。

久しぶりにテントに戻った安心感、見知った仲間が集った安心感、それも、除活活用の、多少でも体力が回復したからか。

こそか、このなんとはなごに感じられる活気がうせないうちに、再び仲間たちが疲れきらないうちに、テントやキャンピングをまもなく再開が必要なのは明らかだ。

三月まで、この状態が続けられるか。お入りが増えるのかどうかわかりなく、おのれを必要とする仲間がどのくらいかわかりはなし。

予定外でいる生活やアセンタールを求めている「除活」の早期実施を

忘れもの？

昨日、除活帰りのバスを降りた仲間が「荷物がない」と大騒ぎしていた。こりり、こりり置いた場所を忘れたか、保管を頼まれた人がバスの乗務員に伝達するのを忘れたかのどちらか。荷物は出てきた。センターへの

野宿者ネットワークからの報告(一)

野宿者ネットワークは、毎週土曜日の夜、釜ヶ崎で野宿を強いられている

中、釜ヶ崎を夜回りしているが、その山下さんとこりり労働者から、野宿の事情を知らされた。

「昨年の月、夜は時どき、心斎橋

あけましておめでとうのころです。日刊えっとの原稿を載せるにあたり、最近の野宿者ネットワークの取り組みをレポートさせていただきます。

ひとつが、山下さんの裁判のことです。

野宿者ネットワークは、毎週土曜日の夜、釜ヶ崎を夜回りしているが、その山下さんとこりり労働者から、野宿の事情を知らされた。

「昨年の月、夜は時どき、心斎橋

あけましておめでとうのころです。日刊えっとの原稿を載せるにあたり、最近の野宿者ネットワークの取り組みをレポートさせていただきます。

ひとつが、山下さんの裁判のことです。

野宿者ネットワークは、毎週土曜日の夜、釜ヶ崎で野宿を強いられている

中、釜ヶ崎を夜回りしているが、その山下さんとこりり労働者から、野宿の事情を知らされた。

の文書付近で野宿を強いられていた山下さんに、ひるいと水原という人の男が暴行を加えた。ひるいは、ベルトで山下さんの顔面をひっぱたき、殴るけるの暴行を加えた。さらに、もっていったボールペンのようなもので左ほほの毛を上げ付近にク針の傷害を負わせた。水原は、暴行に加勢して、山下さんを蹴り上げた。

逮捕状がつかけてくれて、最初示談交渉になったが、ひるいも逃亡。そのあと刑事告訴まで行われて、ひるいは起訴され、10万の罰金刑を受けられている。

こころ、肝心の山下さんへの補償がぜんぜんなされず、やむなく民事裁判に持ち込んだ。結果的には、5

回目の裁判で、裁判官の調停を受け

「昨年の月、夜は時どき、心斎橋

あけましておめでとうのころです。日刊えっとの原稿を載せるにあたり、最近の野宿者ネットワークの取り組みをレポートさせていただきます。

ひとつが、山下さんの裁判のことです。

野宿者ネットワークは、毎週土曜日の夜、釜ヶ崎で野宿を強いられている

中、釜ヶ崎を夜回りしているが、その山下さんとこりり労働者から、野宿の事情を知らされた。

「昨年の月、夜は時どき、心斎橋

あけましておめでとうのころです。日刊えっとの原稿を載せるにあたり、最近の野宿者ネットワークの取り組みをレポートさせていただきます。

医療パト報告

北子わり	194名
南子わり	449名
医療センター	26名
アベノ	144名
心斎橋	146名
日本橋	204名
西東	230名

北子わりでは、臨泊から多くの人か帰ってきました。地区外でも南子わりの人たちが戻ってきて、話を聞きました。アベノ方面で、お腹をけとばされた人かあり、他の人か送られていきました。南子わりで、ケガした人もいたり、病気で下痢していた人か、救急車を呼んでいきました。

て、和解金が支払われることになった。現金でひるい10万、木屑7万計17万」といふのである。暴行を受けてから1年4ヶ月を粘って闘った末の17万といふのは、微々たるものといえるが、それほどもで相手に難物だったといふことを如実に示している。

今回の民事裁判の過程でも、野宿者への差別性がはつきり浮かび上がった。たとえば、ひるいの供述調書には、「……私は、ホームレスの分際であらざる口をきまがって、自分勝手に頭に血が上り、腹が立ちました。私はホームレスの男に、態度が大きいの、こいつてや、私が自分のズボンにこけていた黒い皮製ベルトをはずし、そのベルトを手に持って、ホームレスの男の顔をめがけて殴りつけました」といふくだりがあり、この二つ二つのが随所に現れてきて

いひ。

一応裁判は勝利した形になったが、本当に野宿者への蔑視、差別意識は根が深いといふことをつくづく感じる。

今回のこの野宿者への蔑視に對し、法廷の手ひのひのは極めてまされたといふ思ひ。「これだけ野宿者への差別偏見が根深い中では、多くの野宿者を擁護している仲間は、泣き寝入りをするか否かの現状である。今回、山下さんが裁判で最後まで闘えたのは、本当に二つ二つからは許せないといふ強い気持ちで、何より、弁護士の強力な支えがあったからであつたと思ひ。

野宿者を強いられている仲間への襲撃が多し中で、二つ二つした差別襲撃と闘ひのは相当のエネルギーを要する、この二つ二つを今回の裁判を通じて改めて感じた。(終)

NPO 釜ヶ崎

特定非営利活動法人釜ヶ崎支援機構(略称:NPO釜ヶ崎)が設立まなくに就労機会提供事業にこりかかるといふことができたのは、世の中の大きな流れと関係がある。

一つは野宿を余儀なくされる仲間を雇いだした、平成不況だ、失業率が史上最悪となって、ようやく政府は直接の雇用創出に手をつけることになった。それが、緊急雇用創出基金交付金で、大阪市や府が、ありん、地区の雇用拡大に利用することが可能な予算額となった。

予算成立と実行準備過程が、ちやうど釜ヶ崎支援機構の設立過程と重なり、これまでの経緯とあいまって、事業委託されることになったのだ。

もう一つ、大きな流れと関係がある。それは新しく「短時間」への期待だ。

えっとう

エベスマンと要索

昔から、合意のエベスマンは耳が遠いと言われている。願いのことを行儀よく鈴をならして、正面でスツアツ言っても、聞こえないから、利益はないそうだ。

そんな神様に願をかけても仕方がないように思えるが、実は、工夫が昔からされている。正面から言っても聞こえないのなら裏にまわって、バックン壁をたたりて、エベスマンの注意を引いた上で願いのことを言うというやり方だ。

地方によつては、もっと礼儀をお願いの仕方もあるようだ。ご神体を火にかざし、今年豊作にちなみと燃やしてしまふぞ、ごまごかす神事があつたり。

「仕事、寝場所、メシ」の我々の要索は、このよきな工夫が実現は実現

野宿者ネットからの

報告(二)

2つ目の報告は、トヤ保護申請の取り組みについてである。

昨年11月5日に、江村弁護士が代理人になって数下さんという、天王寺で野宿を強いられていた66歳の仲間が市立更生相談所に申請をした。

トヤを現在地として一時保護し、すみやかにアパートへの敷金をまかせせよという内容である。

現在、大阪市はトヤ保護を認めていない。施設収容主義で、多少の例

できるだろうか。正面か？裏か？火を外除いて、とにかく施設へ入れるか？

「一泊扱いである。今までのところ、施設は3ヶ月くらい入ったら、敷金を支給する」というところまでいっている。しかし、施設の現状を見ると、収容率は50%にもなっていない。どう見ても違法状態。この100%の100%入さらに施設収容するとなると、人権問題にすりなっていく。

この100%道理に合わない状態を打破するために、トヤを一時保護の場所として活用し、そこから敷金支給をさせて、アパートへの居住保護をさせていくというのが今回の取り組みの主旨である。

医療パーソン
幸風

北まわり 203名
南まわり 433名
医療セーフ80名

昨夜は、夕方から降り続いた雨で、カード下の物、たり、シートで
雨を防いで、おとろ人かかした。山王市場や新開筋のオにうつて
おきろ人もいた。西成署の署でビショぬれにやいていろ人あり
4ヶ所でセーフの方おまほ、シギルや4れでケカヒ人、救急車と病院

金を基に個人の利を追求する株式会社と

信頼を基に公益を実現するNPO法人

「バブル」の崩壊は、金銭的額の拡大を目指すシステムだけでは社会生活の安定を達成することができな
いことを示した。

大阪府、市の行政機関を、二十
一世経協会」に人と金を送り出し、
長年に渡って誤ったシステムをまね
みつくってきた。

議会は、大都市部を中心に、民意
を反映する多数に支えられたもので
はなくなっている。投票率は五割を
切っている。学費の支持はさ
つと低い。

NPO 釜ヶ崎

この認識がせにやきわたっ
ていいる結果、阪神線、大阪環状線、
メロリンに社会システム全
体が機能不全状態にある。

の人々の自発的社行動・ボランテ
ィアを契機として、NPO法人への
期待が高まった。「特定非営利活動
促進法」ができたのは一昨年のこと
だ。

NPO法人をつくるのは簡単だ。
資本金も財産も、実績をいらない。
十人の「社員」が存在するだけで、
手続きは済む。

ただ、存在し続け、活動をおこな
うのは簡単なことではない。
国や地方自治体は、税金を徴収す
る権利をもっているが、NPO法人
にはお金を集める特権は、いまだに
こころえられていない。すべて寄付
によって活動をあこなうことが前提
となっている。

そのNPO法人の目的、活動を支
持・参加する人達から寄せら
れるお金と労力によって存在
し続けられるのだ。

社会的認知、社会的支持だ
けが頼りで、それらの形成は
それぞれNPO法人がせに
広く訴えることで、それぞれ
が実現することになる。

直接民意に支えられるシス
テムといえる。
ただし、寄付に対する規制
上の撤廃制度が確立されてい
ないので、税の徴収を独占す
る国や地方自治体が、直接の
民意に配慮して、補助・事業

を断り、活動を支えることだ

特定非営利活動法人釜ヶ崎支援機構

えっとう

未来と現在の為

越冬は、現在を中心とした活動をおこなう組織である。

一九七〇年暮、万博工場の終わりは、多くの仲間の野宿をもたらし、その状況を見捨ててはおけなくなり、労働者自身の中から、オニギリを配り、行政窓口へ押しかける活動が始まった。

年末年始をシノグことができれば一人前といわれた時代のこと。一時期だけの困難を緩和することが必要であった。

一方で、毎年繰り返される越冬闘争の必要は、日雇労働者の日常的な問題が、年末年始に集中してあらわれていることを、はつきりとさせた。

通年的な問題解決を自失す活動がおこなわれるようになる。

それでも、「現在」をはなれろことはなかった。

未来をかけた目標をかかげ、具体的に取り組んだのは、反失業運動会である。

現役日雇労働者の雇用対策をもとめることも、釜ヶ崎の全体的な命令を見すえた対策を要求した。

人は誰でも年をとる。そのことを前提とした対策が釜ヶ崎の中にも確立されなければ、釜ヶ崎労働者に未来はない。あたりまえのことであらう。また、要請し、あたりまえのことゆえ、根拠の点は別にして、

本会者就労事業が実現した。

当面する、現在の課題にとり組むことは大切な。同時に、未来をみすえた対策づくり、萌芽をつくりだすことも重要だ。

自立支援センターや施設宿所（シエルト）を現在の状況に即応する対策として考えるのではなく、それらに代わって、仲間の一人一人が、そして、釜ヶ崎全体が目を思いえがけることに役立つものとして構想しなければならぬ。

日々を精一杯生きる努力とともに明日につながる知恵、提案がもたらされている。課題は、反失業センターに引きつけられる。愛護感謝！

医療パトロール報告

一月二日の夜、センターの

軒先でひとりの野宿して
いた人が亡くなった。その後、逝
てしまった。魂と生き様に、ひとりひとりの支障の仲間

労働者が、からだ中に怒りと無念の情をこらえ
て、じつと黙とうした。さもちかひとつになつた沈黙の
中で、連帯の意思心かかよい合うのを感じる。

越冬闘争の最後の夜、炊事班の仲間のにぎつた
千二百個の大おにぎりや、寝ころぶ仲間と顔を
合わせて、手渡してゆく。療車の中で

ずつと居る人に、毎晩、かせ葉を
手渡していた。「かせのあんぱい
どうですか」「まだ熱かひかんから
なし」としんどそう。早く暖かく
なればと思う。

この厳寒ののち、必ず春はやってくる。
それまでからだを守って、しのいで欲しい。

2000年1月10日

北まわり	212名
南まわり	432名
医療センター下	67名
アベノ天王寺	156名
日本橋西	200名



特定非営利活動法人釜ヶ崎支援機
構の設立時の財産は現金50万円であ
った。設立総会に集つた会員の人の
年会費だけの出費であつた。

金は沢山にあるとはいえないが、
信頼に委ねられた出費ではあつた。

これまで生活道路清掃の専ら主体
を担ひ、育ててきた自費もある自運
館の吉村理事長は、就労枠拡大につ
いて、当然NPOが荷うべきと
応援し、奮闘となつた。

西成区における野宿生活者解
題を解決すべく、西成社会福祉
協議会の幹会長は理事に就任し、
NPOの法人の信頼感を高めた。

野宿生活者に密着した活動を
保証するために、反失連の二人
の代表が、理事長と副理事長とな
つた。

大阪市立大学同和問題研究室の
野口教授は理事として、啓蒙にあ
つた。

役を表明して行く。

城之希屋連合町会西口会長は、地
域社会により情報を伝えるべく幹事
に就任した。

野宿を命儀なくされて行く仲間、
あるいは野宿にいたるおそれのある
仲間を支える様々な活動を、これか
ら本格的に始めようとしている釜ヶ
崎支援機構は、多くの人の信頼と支
援に力を入れられている。

越冬闘争反失連が要求して行く
自立支援センターや常設宿所の運
営についても、仲間の要求によつ
た自身を確保するための、積極的
に闘わって行くことが期待される。

NPO 釜ヶ崎

釜ヶ崎に新しく生れた法人、こ
れまでの団体とは一味違つた法人は
なぜ判りにくいと考へたので、特に長
い紹介をおこなつた。仲間にとって役
立つ活動を就労機会の提供以外にも
うけられるかどうか、長い目で見てもらう。